

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

資料3

令和7年12月23日

協議会名: 諏訪市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
■事業者名 ・アルピコ交通株式会社 ■運行系統名 ・すわライナー時計回り線	・すわライナー時計回り線 (※原則毎日運行) 日赤病院⇒上諏訪駅(霧ヶ峰 口)・上社⇒上諏訪駅(諏訪 湖口)				
■事業者名 ・諏訪交通株式会社 ■運行系統名 ・かりんちゃん子バス東山 線反時計回り ・かりんちゃん子バス東山 線時計回り ・かりんちゃん子バス東西 線反時計回り ・かりんちゃん子バス東西 線時計回り	・東山線反時計回り (※原則毎日運行) 上諏訪駅(諏訪湖口)⇒日赤 病院⇒上諏訪駅(諏訪湖口) ・東山線時計回り (※原則毎日運行) 上諏訪駅(諏訪湖口)⇒尾玉 町入口⇒上諏訪駅(諏訪湖口) ・東西線反時計回り (※原則毎日運行) 新田上⇒上諏訪駅(諏訪湖 口)⇒大熊⇒上諏訪駅(諏訪湖 口)⇒新田上 ・東西線時計回り (※原則毎日運行) 新田上⇒上諏訪駅(諏訪湖 口)⇒大熊⇒上諏訪駅(諏訪湖 口)⇒新田上	■市内を運行する公共交通全 体の利用促進を図るため、市 民に対してのかりんちゃんバス の周知活動を行った。 ・市広報誌、ホームページ、 LINEを活用し公共交通に関す る様々な情報発信をした。 ・ライフドアすわ、諏訪市社会 福祉協議会、市高齢者福祉課 と連携し、高齢者を対象とした 無料体験乗車企画を計画し た。 ・市内高校の新入生向けに利 用案内のチラシを配布した。 ■GTFS-JPデータの整備を行 い、利便性向上を図っている。 ■スマホ乗車券を販売し、 キャッシュレスに対応すること で、利便性向上を図っている。	A 事業が計画に位置づけら れたとおり、適切に実施さ れた。	B ■利用者数 目標: 98,678人 実績: 123,595人 ■収支率 目標: 17.1% 実績: 14.0% 利用者数については、目 標を達成することができた。 収支率については、目標 を達成できなかった。 <要因> 収入額は前年より増加し ているものの、運行に係わ る費用(人件費、修繕費、 燃料費等)が増加したた め。	■目標値の維持及び向上に向 け、市内で運行する公共交通 全体の利用促進を図るため、 引き続き市民に対しての周知 活動やイベント等でのモビリ ティマネジメント事業を継続的 に実施する。 ■市高齢者福祉課や社会福祉 協議会と連携して、高齢者を対 象にした体験乗車企画を計画 し、バスの利用促進を図る。 ■路線の再編やAIオンデマン ド交通への移行により、持続可 能な公共交通の実現を目指 す。
■事業者名 ・諏訪交通株式会社 ・アルピコタクシー株式会社 ・第一交通株式会社 ■運行系統名 ・かりんちゃん子バス大和 四賀線	・かりんちゃん子バス大和四賀 線 (※原則毎日運行) 大和1区⇒上諏訪駅(霧ヶ峰 口)⇒神戸公民館前	■令和6年12月に地域の実情 に合わせて一部ダイヤ改正を 行った。			

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年12月23日

協議会名：	諏訪市地域公共交通活性化協議会
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>諏訪市は、長野県のほぼ中央部に位置し、市域は諏訪湖に面した中央の平坦地と、北東側・南西側の山地で形成されている。交通軸としては、JR中央本線が南北に縦断し、長野県中信地域と首都圏を結ぶ特急あずさの停車駅である上諏訪駅が設置されている。また道路網としては、中央自動車道や国道20号が通過している。</p> <p>近年では、少子高齢化に伴う人口減少や市民の日常生活における自家用車への依存、物価高騰による経費の増加など、地域公共交通を取り巻く環境は厳しい状況にある。そういった状況に対応し、持続可能な公共交通を実現するため、令和5年に諏訪市地域公共交通計画を策定した。「市民生活とみんなを支え、みんなで育む 諏訪市地域公共交通の実現」を公共交通が目指す姿として掲げ、地域間幹線系統やフィーダー系統、新たな公共交通である「チョイソコかりんちゃん」を組み合わせることで、生活交通ネットワークの構築を進めている。</p>